

るこゝを論證せられて、感生と夫婦別居の場合を問はず、女子には古く姓ありて存し、支那の神農以下五帝の姓が其母の系統によりて名けられたるは明ありと謂はれ、支那には古くより女子に姓あるこゝを謂はれ居れるも、之に劉師培の説並に王國維が龜甲文研究の結果殷人には未だ女姓無く、周に至りて始めて女子皆姓を稱せるならむと謂ふ説あるに對して一言辯ぜられあるざには如何なる故なるにや吾人固より此の問題を研究したるこゝなく従つて茲に述ぶる所は毫も批評的意味に非ず、唯紹介に當りて聊か附記するのみ、(定價二、五〇、長崎高等商業學校研究館發行)(以上那波)

●大正七年度古蹟調査報告

第一冊 朝鮮總督府

本冊收むる處、濱田委員、梅原囑托提出の「慶尙北道慶尙南道古蹟調査報告」ミ原田委員の「慶尙北道慶州郡内東而普門里古墳及慶山郡清道郡金泉郡尙州郡並慶尙南道梁山郡東萊郡諸遺蹟調査報告書」ミの二編にして、四六倍版本文九十四頁、圖版百十五葉より成る。前者は慶尙北道星

州に於いて發掘調査を行へる三個の古墳、同高靈の三古墳及び慶尙南道昌寧校洞に於ける二基の墳墓に就いて一々其の外形、内部の構造、發見の遺物の詳細なる記載を試み、破壊せる遺蹟を記録の上に復原するに共に、此の調査の結果獲たる遺物中土器の特質、耳飾、刀裝具、帶飾等の金屬器に關しての研究を録し、また古墳そのもの、構造を如上の遺物の内容ミ比較考査して考古學上より營造の年次を推し、其の各の間に多少の年代の相違あるべきも、六朝中期の加羅の古墳ミ見るべきものなりと云へり。文中個々の遺跡の記述に正確を期せるは固より、其の耳飾の條に於いて從來發見の類似の諸例を挙げ製作の技術に關する考察よりして其の源流に及べるが如き、また是等古墳の構造ミ内容遺物ミの關係を内地古墳の示す處ミ比較して其の異同の依つて起る因由を究めんせざるが如き、なほ此の類の注目すべき見解を隨處に示せり。此の報告の編末には醫學博士長谷部言人氏の手に成る「星州古墳人骨調査」の一編あり、其の第二號古墳第一附屬石室及び第六號古墳出土の人骨に關する人類學上の調査の結果を細録せり。而して結論として、人骨の前者は現代の北鮮

地方人の特徴とする處に近きを云へるは注意を惹く。

原田委員の報告は其の題目に示せる如く、慶州外東面の積石塚に關する調査を主とし、自餘の地域は何れも略報告にして本文十六頁に過ぎざるが、其の積石塚は學術的に根本的調査を行へる特殊古墳の實例として、また裝飾附勾玉、帶飾、耳飾、銅鏡等の貴重なる遺物を出せるを以て研究上の基準たるべく、本報告圖版ニ對比して簡單ながらよくその要を擧げたり。なほ同氏は出土の遺物の研究より此の塚の年代を六朝末期に置けり。（非賣品）

●熊本縣史蹟名勝天然記念物

調査報告 第一冊

今次出版せし第一冊は同縣下に於いて最も有名なる玉名郡江田の船山古墳の調査報告を主とし、これに同じ江田村中小路の穴觀音石室の小編を附載せるもの、兩者共に京都帝國大學考古學教室の梅原末治氏の稿する處なり江田の古墳は前方後圓墳にして埴輪及び石人あり、墳の主軸は羨道ある横口式石棺にして、明治六年此の棺内より發見せる遺物には玉類、鏡鑑、武器類の外、金製耳飾金

銅製冠、同沓、銀象嵌の銘ある太刀等幾多の貴重なる類を存して研究上の價值大なるものあり、されば從來其の遺物の一部分を研究してこれを女王卑彌呼の墓に比定せる學者すらあり。本報告は此の遺跡の状態ニ遺物の全般に互りて正確なる記述を試み、資料を學界に提供するに共に如上の著しき遺物に對して研究を行ひ、類品を發見するに多き南朝鮮の遺品ニ比較して其の性質を考へ、また象嵌刀の銘の釋讀に意を用ひて、これが製作の國土の恐らく韓土なるべきを推し、更に考古學上より其の墳墓の營造年代を論じて、卑彌呼代とするの説を排し、各種の方面より歸納してこれを六朝中期に置ける處注目すべきものあり。本文菊版五十六頁あり、圖版三十九枚を添ふ。（熊本縣發行、價二、〇〇）

●古墳と上代文化

高橋健自著

國史講習會發行文化叢書の第九編として印行せられしもの、記する處我が上代古墳墓の構造に關する綜括的記述にして、墳丘、石槨及横穴、石棺陶棺及羨棺の各に就いて、あらゆる種類形式を網羅し、其の相互の關係ニ變遷を

彙報

●京都帝國大學文學部史學

大正十一年度講義題目

正科目

(國史)

普通 國史概説(中世及近世)

國史概説(古代)

特殊 貞永式目追加の研究

國史地理(行政區劃ノ沿革)

朝鮮史

演習 室町時代の庶民文化

平安朝時代の社會狀態

(支那史東洋史)

普通 東洋史概説(古代)

東洋史概説(中世)

東洋史概説(近世)

特殊 支那の繪圖

支那史外國資料

西域史

支那考古學

演習 日知錄に就きて

三浦 教授

喜田 教授

三浦 教授

喜田 教授

同 教授

今西助 教授

三浦 教授

喜田 教授

内藤 教授

桑原 教授

矢野 教授

内藤 教授

矢野 教授

内藤 教授

羽田 教授

濱田 教授

桑原 教授

内藤 教授

矢野 教授

考察する處あり、餘論として如上の事實を遺物と對比するに於いて、その間自ら我が上代外來文化と固有の文化との區別の認めらるゝものあり、また古墳の分布よりして皇威發展の迹を徴すべきものあるを云へり。本文四六版百三十頁の小冊子なるが、文中拂むに多數の參考圖を以てし、簡潔なる記述の間に近時大いに開明せる斯學の業績を録せるを以て、一讀我が古墳墓に關する正確なる智識を得べく、また行間古墳を通じて我が上代文化を髣髴せしめんとする著者の用意の窺はるゝものあり、蓋し近時の考古學界に於ける特記すべき述作の一ならむ。たゞ其の用紙粗惡なる爲挿圖多く明瞭を缺くを憾みなす。

(定價一、〇〇、東京國史講習會)〔梅原〕